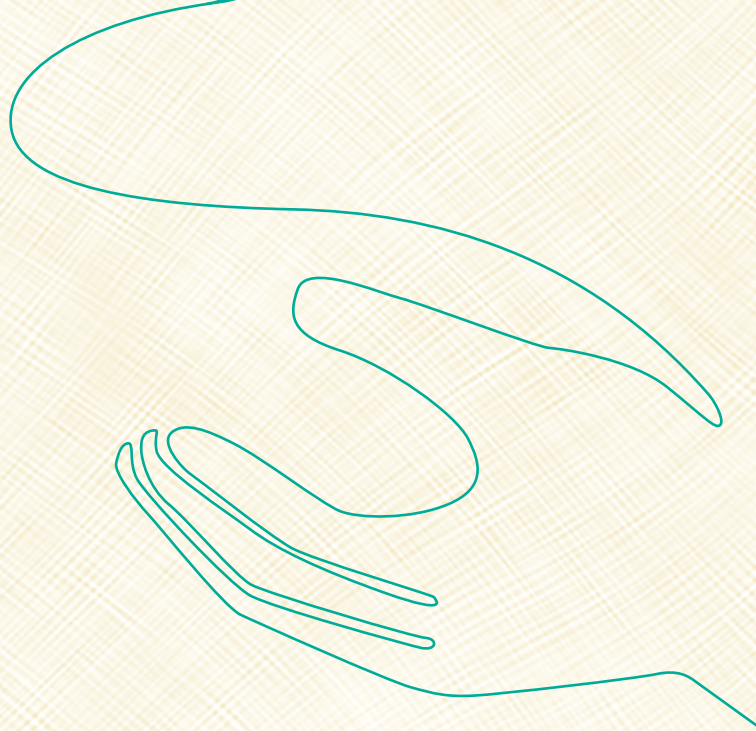




これまで
これから



社会福祉法人
大阪府社会福祉協議会 保育部会

70th
Anniversary

大阪府社会福祉協議会 保育部会

70周年を記念して



社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
保育部会 会長
もりた しんじ
森田 信司

保育部会が創立されてから70年になり、このたび記念誌をまとめさせていただきました。

振り返ると、GHQの「社会福祉行政に関する6項目」により「社会福祉事業法」(昭和26年)ができ、また全国や府県レベルにおける社会事業団体や施設の社会福祉活動に関する協議会の設置が急がれ、大阪社会福祉協議会(以下、大社協)の誕生とともに、大社協内に保育部会をはじめとする9つの専門部会が創設されたのがはじまりです。

初代部会長には、上田顕光先生(旭ヶ丘学園)が就任。昭和31年の大阪市私立保育園連盟結成以降しばらくの間は、部会長の任期を一期とし、大阪府、大阪市と交代制で、副部会長も大阪府市、公私立の代表からといった組織形態をとっていました。

昭和46年12月には、大阪府の民間施設に対する予算要求ゼロ査定に対して大阪中央公会堂で行われた「大阪民間社会福祉施設予算要求総決起大会」での2千人のデモ行進。いわゆる「風船デモ」と府内民間保育園の「一斉休園」を実施。

2年後の公私間是正のための「大阪府民間給与改善費補助金」制度実現へと実を結びました。

こうした民間社会福祉施設、とりわけ保育部会の団結力と行動力が大きな力となったことは

いうまでもなく今の部会活動にも生きています。

また、調査研究委員会が中心となって昭和57年に実施した1万人の「育児についての女性の意識調査」は、調査研究委員会のメンバーに加え保育士さんたちが一戸一戸を訪問しての聞き取りを行い、貴重な調査結果を得ることができました。

この調査結果が基となり、昭和59年に「でんわ育児相談センター」を開設。これが、現在の地域貢献支援員(スマイルサポーター)へと発展していきます。

平成4年の大阪府補助事業「わんぱくプラザ」では、これまで「目的外の禁止条項」ということで、在園児以外への保育等の提供は認められませんでした。この事業により在宅家庭への支援ができるようになり、これを国に認めていただき「子育て支援センター事業」へと成立したのです。

このように大阪府の保育事業は、国や制度よりも先に時代を切り拓き、団結力と行動力に知恵と英知をもって進んできました。

これまでの先人たちの功績に恥じぬよう、これからもより良い子どもの未来のために精進し励んで参りますので、関係各位のご協力をお願いいたします。



CONTENTS

1	祝辞	
	大阪府知事	吉村 洋文1
	大阪市長	松井 一郎2
	堺市長	永藤 英機2
	大阪府福祉部子ども室 室長	永尾 光年3
	全国保育協議会 会長	奥村 尚三3
	大阪府社会福祉協議会 会長	井手之上 優4
	大阪府保育士会 会長	伊藤 裕子4
	日本保育協会 大阪支部長(前保育部会長)	永野 治男5
	全国認定こども園協会 大阪支部長	嶋田 典之5
	大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 教授	関川 芳孝6
	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 准教授	中谷 奈津子6
2	座談会 I	
	「70年の成果を次世代へつなぐ」7
3	座談会 II	
	「保育の未来をつくるために」9
4	保育部会70年のあゆみ11
5	保育おおさか第141号～第144号	
	「おおさかの保育を辿る」	
	～先輩たちの無言の教えから～17
6	役員名簿21
7	編集後記22



祝辞



大阪府知事
よしむら ひろふみ
吉村 洋文

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会保育部会が、発足70周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴会は昭和26年の発足以来長きにわたり、保育施設の運営や地域貢献事業などを通じ、大阪の保育や地域福祉の向上に大きく貢献をされてきました。また、保育を担う人材の育成や確保のため、保育に関する調査研究、情報発信や保育士等キャリアアップ研修をはじめとする研修を実施するとともに、本府が認定している「地域貢献支援員(スマイルサポーター)」の育成や大阪しあわせネットワークの実施など、先駆的な事業に取り組み、全国のモデルとなる「大阪の保育」を築いてこられました。

これもひとえに森田部会長をはじめとする、歴代の役員並びに会員の皆様のとゆまぬご努力の賜物と深く敬意を表します。

保育施設で従事される皆様におかれましては、昨年から続く新型コロナウイルス感染拡大の中、人と人との身体的距離の確保等、三密を回避する

ことが難しい職場において、子どもたちの安全を確保するため、日々、感染予防に細心の注意を払いながら保育を継続しており、社会生活・経済活動を維持する要として、大阪の保育を支えていただいていますことに改めて感謝申し上げます。

大阪府では、新型コロナウイルス感染症による社会へのダメージを最小限に抑え、大阪の再生・成長に向けて取り組むべき方向性を明らかにする、新戦略を昨年12月に策定しました。この戦略により、大阪のさらなる成長と2025年大阪・関西万博の成功、SDGs(持続可能な開発目標)の達成へとつなげていきたいと考えており、新型コロナウイルスの感染拡大を乗り越えた先の未来を担う子どもたちが、健やかに、そして安全で安心して過ごせるよう、保育・子育て支援施策に全力で取り組んでまいりますので、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、貴会の今後さらなるご発展と関係者の皆様のご健勝、ご多幸を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



大阪市長
まつい いちろう
松井 一郎

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会保育部会が発足70周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

また、皆様方には、平素から次代を担う子どもたちの心と体の健やかな成長を願い、日々、児童福祉の向上及び推進に多大なご尽力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

保育部会におかれましては、昭和26年の発足以来、大阪の保育の資質向上を目指すとともに、地域の子育て支援の拠点としての保育施設づくりに大きく貢献しておられます。

時代毎の課題に対応した調査研究や各種研修会の実施、スマイルサポーター事業の推進などを通じて、地域において保育施設が果たす役割の充実



堺市長
ながふじ ひでき
永藤 英機

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会保育部会が発足70周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

70年の長きにわたり地域貢献事業や研修等を通して大阪の保育環境の向上に多大な貢献をしてこられました。

森田部会長をはじめ、保育部会の皆様の熱意と努力に深く敬意を表します。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、保育施設で従事される皆様は子どもたちの日常生活や保育行事、保護者との面会などさまざまな場面で変化を迫られ、大変なご苦労があることと思います。

に積極的に取り組んでおられることは誠に意義深く、森田部会長をはじめ関係の皆様方の熱意とたゆまぬご尽力に深く敬意を表します。

皆様方には、さらなる活動の進展を図られますよう期待申し上げますとともに、本市といたしましても、安心して子どもを産み育て、働くことができるように、子育て教育環境の充実につながる取り組みを推進してまいりますので、皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

発足70周年を機として、社会福祉法人大阪府社会福祉協議会保育部会が今後一層発展されますよう、また、皆様方のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。お祝いのことばといたします。

日々の皆様のご尽力のおかげで子どもたちの安全で安心な生活が守られています。

堺市は、新型コロナウイルスの影響を受けた保育に関わる方々への支援に取り組むとともに、多様化する子育てニーズにも対応できるように、それぞれのライフステージに合わせた切れ目のない支援の充実を図り、すべての家庭が安心して子どもを生み育てられる環境をめざしています。

皆様には、引き続きご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

結びに、社会福祉法人大阪府社会福祉協議会保育部会の今後の更なるご発展と、皆様のご健勝、ご多幸を祈念し、お祝いの言葉といたします。



大阪府福祉部子ども室
室長
なが お みつ とし
永尾 光年

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会保育部会が、発足70周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

保育部会の皆様におかれましては、昭和26年の発足以来今日に至るまで、保育の研究・研修や情報交換等の活動を通じ、保育の質の向上や児童福祉の増進に多大な貢献をされてこられたことに、心から敬意を表します。

また、保育所等による地域貢献事業としては全国初となる「地域貢献支援員(スマイルサポーター)」を養成し、子育てに関してだけでなく、高齢者や障がい者等に関する相談にも幅広くご対応いただくなど、地域福祉の担い手としても重要

な役割を果たしておられることに、改めて感謝申し上げます。

大阪府といたしましても、令和2年3月に策定した子ども総合計画に基づき、次代を担う子どもが、ひとりの人間として尊重され、創造性に富み、豊かな夢を育むことが出来る大阪をめざし、皆様方のお声をしっかりと受け止めまして、子ども施策を着実に推進してまいりますので、変わらぬご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、貴会の今後益々のご発展と皆様のご活躍を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



大阪府社会福祉協議会
会長
い での う え まさる
井手之上 優

保育部会の創立70周年、心からお祝い申し上げます。

振り返りますと、戦後の混乱と廃墟の中から脱し、新しい社会要請に応えるため民間社会福祉活動が芽吹きを迎えた昭和26年、保育部会は私ども大阪府社会福祉協議会(以下、大社協)の設立と同時に設置された9つの専門部会の1つとして位置づけられたことにはじまり、以来、大社協と歩みをともしてきました。

当初の保育部会は公私合わせた組織として、子どもたちや職員の処遇向上など施設の近代化に向けた取り組みが精力的に行われていたようです。現在は、民間園を中心とした700カ園を超える部会となり、地域福祉を進める大社協の中で最大の部会へと成長しました。

特に、育児相談事業をさらに発展させた地域貢献支援員(スマイルサポーター)の養成は2,700人に達し、地域福祉の充実強化が求められる今日、国が進める「地域共生社会」を実現するための貴重な担い手となっています。

これからも、保育園・認定こども園が、地域により密着しているという強みを活かし、地域の関係機関・団体や住民との連携・協働をさらに進めていただき、その専門性を発揮されることに期待をしています。

結びに、70年を契機に「歴史とは現在と過去との対話である」という言葉のとおり、先達の思いに触れつつ、次の10年、20年と保育部会がさらに飛躍されますよう祈念してお祝いの言葉とします。



社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国保育協議会 会長
おく むら なお ぞう
奥村 尚三

このたび、大阪府社会福祉協議会保育部会が70周年を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げますとともに、これまで長きにわたって積み重ねられた皆さまの活動に対し、敬意を表します。

保育部会では、府内の保育関係者の強い連帯と深い理解のもと、保育のさまざまな課題に取り組まれてきたと伺っています。

令和3年度、国では「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会」が設置され、「人口減少地域等における保育所の在り方」や「保育所・保育士による地域の子育て支援」などの議論が行われました。保育所・認定こども園等の地域

における新たな役割への期待が高まるなか、保育部会で実施されている「スマイルサポーター事業」は、多くの保育関係者に参考となる先駆的な取り組みです。

70周年を迎えた保育部会が、これまで同様に時代を先取りし、より一層充実した活動のなかで、すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現をめざして歩んでいかれることを願います。

終わりに、今回の記念誌発刊にご尽力された関係者の皆様に心からの敬意と感謝を捧げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



大阪府保育士会
会長
い とう ひろ こ
伊藤 裕子

保育部会創設70周年、まことにめでとうございます。今日に至るまで先輩方々のご苦勞があったことと思います。

戦後、日本の生活事情も現在とは大きく違い、誰もが自身のことや家族のことで精いっぱいの中、また、今の時代と比べて社会福祉の言葉がまだまだ世に広がっていないその当時から、地域支援・地域貢献をされてこられた諸先輩方々に敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。

ご近所、知り合い、地域の方が農繁期や就労のために子育てに苦慮されていた時に、託児所的なところからはじまった保育園。児童福祉法制定か

ら認可園が増え、社会のニーズに合わせ次々と保育も様変わりしてきました。

近年では、女性の就労率も増えたこと、また少子高齢社会が進むなかで、子育ての不安や悩み、虐待のケースも増え続け、それらの対応が求められています。社会の変動とともに、歩み続ける保育界。保育士会も微力ではありますがお手伝いできればと考えております。

今後も、社会を担う子どもたちの成長と笑顔のために、森田信司部会長を中心に活躍されることを願っております。



日本保育協会 大阪支部長
(前保育部会長)
ながの はるお
永野 治男

保育部会が組織化され70周年！その間部会組織運営に携わった一人として、先ずもってこの部会の礎を創っていただいた先輩方に敬意と感謝を申しあげます。

私が部会に関わりをもつきっかけは、当時複式簿記の導入で高岡先生が主導されていた各ブロック複式簿記研修会の一員として活動をはじめたと記憶しております。以後、大社協の井上光施設課長(当時)のご指導により、保育おおさか編集委員、調査研究委員会等次々に起因する諸問題に初めて対面する問題に頭を掻きながらの日があったことを思い浮かべます。花博での竹馬行進、ハワイの子どもたちの招聘にハワイに2年連続での訪問。平成7年阪神淡路大震災での川崎先生とともに行った5回に及ぶ炊き出し

活動、義援金1千万円を集めるなど、組織の力をひとつに結集することができたのは、常日頃の調査研究委員会等の交友関係が大きな支えや力となりました。

平成17年に高岡先生の後を継ぎ会長職を担い、老人施設部会がはじめていた社会貢献活動の保育園版『地域貢献準備委員会』を立ちあげ。スマイルサポーターの養成には、森田現会長の働きにより大阪府の認証をいただけたのは大きな成果。また、民間をたいへん理解していただいた行政等の方々の存在も大いに助かりました。

今後は地域に存在する社会資源としての保育園・認定こども園は社会のセーフティネットの役割が益々増えていくことでしょう。今後とも部会が更に発展されんことを念じてお祝い申しあげます。



大阪府立大学 人間社会システム科学研究科
教授
せきかわ よし たか
関川 芳孝

大阪府社会福祉協議会保育部会が組織され、70周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申しあげます。

戦後の混乱期、大阪の保育所は、生活に困窮する世帯の子どもを数多く受け入れ、就労する子育て世帯を支えるなど、将来の子どもの育成に奮闘されてこられました。

保育制度も十分でなかった時代に、歴代部会の役員の方々は、子どもの利益を代弁しようと熱心に予算要望活動を行ってきたことも保育部会の大きな功績です。

調査研究委員会は、日本の保育をリードする人材を輩出し、保育所を取り巻く制度環境が大きく変化する1980年代に、大阪府下の子育て中の女

性1万人に対し「育児についての女性の意識調査」を行いました。地域の子育ての多様なニーズを明らかにするとともに、新たに「でんわ育児相談事業」をはじめるとともに、新たに「でんわ育児相談事業」をはじめるとともに、さまざまな先駆的な取り組みが、現在のスマイルサポーター事業につながっています。

これまでに複合的な困難を抱える子育て家庭に対する支援に尽力されてこられたこと、また、コロナ禍で生活に困窮する子育て世帯への支援では、大阪しあわせネットワークとも連携し、すべての子どもの健やかな育ちを守るセーフティネットの役割をさらに期待しています。保育部会の皆様の益々の活躍を祈念し、お祝いのことばといたします。



全国認定こども園協会
大阪支部長
しまだ のり ゆき
嶋田 典之

大阪府社会福祉協議会保育部会発足70周年を迎えられましたことを心よりお祝い申しあげます。また昭和26年当時に先見の明をもって、会を発足され、事業を発展させ、会員拡大を図り、設立の思いを連綿と継承してこられた歴代会長様をはじめ役員方々のご熱意とご努力に深く敬意を表します。

大阪の保育部会は現在700カ園を超える会員数を有し、相互に連携をとりながら質の高い教育・保育と子育ての支援、安定した園運営を実践し、絶えず全国の保育業界をリードしてこられました。

大阪の保育部会は有事の際に一致団結できる結束力と動員力を有していることで有名であります。平成15年に、保育所運営費の一般財源化や保育所調理

室の撤廃案等が出された時、これを阻止するため保育三団体が日本武道館で「子どもを守る総決起集会」を開催しましたが、大阪からは当時の高岡部会長の呼び掛けに呼応して400人を超える保育関係者が参加しました。また、平成22年に大阪が担当した近畿ブロック保育研究集会是大阪国際会議場の大ホールを使って、近畿ブロックとしては初めて1,000人を超える1,113名の参加者を得て大会を成功させました。

全国認定こども園協会大阪支部の会員の大半は保育部会の会員でもあります。今後とも仲間として、手を携えて、「子どもの最善の利益」のために尽力しながら、共々に発展できますようよろしくご指導の程お願い申しあげ、お祝の言葉といたします。



神戸大学大学院 人間発達環境学研究科
准教授
なかたに なつ こ
中谷 奈津子

このたび、保育部会が発足70周年を迎えられたこと、心よりお祝い申しあげます。

保育部会とのお付き合いは、地域貢献支援員(スマイルサポーター)養成研修の講師を務めさせていただいたことがはじまりです。当時、保育部会の先生方が私の研究室にお越しになり、保育部会の歴史やスマイルサポーターの構想などをお話してくださいました。まだ保育現場とのお付き合いが少なく、子育て支援に関する実践の講師を務まるかとても不安でしたが、子どもや家庭、地域の幸せを強く願い、自分たちにできることは何かを日々探究されている保育部会の方々の姿勢に心を打たれ、自分も何とかやってみようと思ったのを

覚えています。

それから早いもので10年が経とうとしていきます。その間、大阪の保育現場をフィールドにいくつかの調査もさせていただき、令和3年には拙書『保育所等における子ども家庭支援の実態と展望』も出版させていただきました。

本書は保育部会を中心とした積極的な保育実践からさまざまに教えていただいたことの賜物であると感謝しております。

今後の保育部会のより一層のご発展を祈念するとともに、微力ながら、これからも引き続きお役に立てるよう努力する所存です。

70年の成果を 次世代へつなぐ

70年前、保育部会が設立されてから、保育の環境は大きく変わりました。その中で、保育部会が果たしてきた役割と、未来に向けて何に取り組むべきかを歴代部会長に語っていただきました。



第10代目部会長
千里丘愛育園
高岡 國士先生

第11代目部会長
横塚こども園
永野 治男先生

第12代目部会長
若江こども園
森田 信司先生



保育園のニーズが高まった 高度経済成長期

高岡 私が保育部会の副部会長になった昭和40年代は、保育園のニーズが高まり、公立保育所が設立されはじめた時代です。公立は民間より労働条件がいいので、民間が無資格の人を雇って育てて資格を取得させた途端、公立に引き抜かれていました。大阪府に労働条件の改善を陳情しても変わらなかったため、立ちあがって起こしたのが「風船デモ」でした。

永野 忘れもしない、昭和46年12月8日のことですね。約2,000人が風船を持って淀屋橋から府庁前まで公民格差是正を訴えながらデモ行進し、その日は、大阪府内の民間保育園は一斉休園しました。あれはすごかったですね。

高岡 結束力が強かった。その後、職員の処遇は向上し、施設整備費の予算もかなりつきました。

森田 それまでは、法人認可をもらうのが大変だったと聞いています。当園も、自前で土地を買って建物を建てて、無認可で半年運営してようやく法人認可をもらいました。

永野 その頃、産業界は労働力を家庭の主婦に求めるようになり、保育園のニーズが高まっていました。うちも紡績業を営むのに人手が足りなかったため、主婦を雇うために昭和42年、空き部屋で保育園を開いたのがはじまりです。

組織の活性化に向けて

永野 高岡先生は、保育部会だけでなく全大阪のリーダーとして活躍され、いろいろな事業をスタートされましたね。印象に

残っていることは何ですか？

高岡 経営者部会を立ちあげたことですね。それまでは、行政に補助金を求めていましたが、保育園は経営力をつけるべきだと考えたのです。

そして、私はずっと保育部会を活性化するために何をすべきかを考えていました。

永野 そのひとつが、高岡先生が昭和53年に発足させた調査研究委員会(以下、調研)ですね。その後、保育部会は組織的に動き出しました。当時私は30代で、調研のメンバーも同世代の経営者ばかり。横のつながりができて楽しかったのを覚えています。そのメンバーが保育部会の礎をつくり、各ブロックが組織だって動けるようになりました。

高岡 女性が子育てで何が一番困っているのかを知るために、府内の女性1万人を対象とした「育児についての女性の意識調査」をしたこともありでしたね。

永野 保育部会員総動員で、1万人の家庭を訪問しましたね。

高岡 その結果、子育て相談ができる場が必要だと分かり、保育士が電話で育児の相談を受ける「でんわ育児相談」を立ちあげました。その事業を充実させるために研修会を実施し、修了者は府知事から育児相談員として認定してもらえるようにしました。

森田 1万人の意識調査がもとになって、さまざまな事業ができましたね。「でんわ育児相談」や子育て支援センター事業がはじまり、永野先生が部会長の時代に地域貢献事業(スマイルサポーター事業)に発展しました。

永野 私がスマイルサポーター事業を立ちあげたのは、保育園に出入りする保護者が抱える子育てや高齢者の介護などの悩み

の相談に乗り、地域貢献につなげたいという思いがあったからです。この事業が、府知事認定を受けたのは大きかったです。

森田 永野先生は、平成17年に保育園と保護者をつなぐコミュニケーションツール「よい子ネット」を開発されましたよね。私も担当させていただきましたが、大阪府から3年間補助金が出たので、より良いシステムを構築することができました。今はかなり使いやすいシステムになっていると思います。

高岡 永野先生も十数年間の部会長をされた中で、いろいろな事業を立ち上げられましたね。

森田 人材確保に向けても尽力され、「保育士養成校と保育園の研究懇談会」がはじまりました。その中で、保育士養成校への入学を検討している高校生に保育士の仕事の魅力を伝える「5日間の夢体験—高校生のための保育職業体験事業」がスタートしました。今年度はコロナ禍に関わらず、参加者は過去最多の400人超となり、事業開始から6年で延べ約1,600人の学生が体験しています。

永野先生は、部会長を7期務められましたが、一番大変だったことは何ですか？

永野 やはり、平成27年4月1日から保育園制度が変わったことです。大阪の170余りの保育園が一斉に幼保連携型の認定こども園になりましたが、先代方が築いてきた部会組織がバラバラにならないよう、保育園と認定こども園をまとめるのに腐心しました。

森田 私が部会長になったのも、保育園と認定こども園を組織としてまとめなければならない時代でした。また、私は調研の委員長も引き継ぎましたが、その頃のメンバーは園の創立者の二代目、三代目を中心です。時代の流れを感じます。

今後の保育部会の役割

高岡 今後、保育部会の活動は子育て支援が中心になるでしょう。きめの細かい政策をつくって、各園が選択できるよう提供してほしいと思います。

森田 私は、生まれる前からの子育て支援、育児相談事業に取り組みたいと思っています。育児相談をきっかけに、家庭のさまざまな問題が分かるようになり、我々の役割の幅も広がりました。また、育児相談員は、こちらから各家庭を訪問する“行動するカウンセラー”をめざしてもらおうと考えています。

永野 国は、保育園を地域の拠点にしたいという思いもあるようです。

森田 スマイルサポーターがいる園は看板を掲げているのですぐに分かりますし、スマイルサポーターは育児以外の困りごとでも解決に結びつける技能があります。ただ、保育園を拠点にするには、課題は山積みです。

永野 保育部会の園の数は今、700か園を超えているので、いろいろな考え方が出てくると思います。保育部会が活動を継続するには、組織の求心力を高める必要があるでしょうね。

森田 はい。現在は一法人が複数施設を運営し、経営者ではない園長先生もおられるため、各園との関係は以前と比べると希薄になっています。研修や資格制度をつくるなど、保育部会に入る魅力を提供しなくてはなりません。また、園児が減って空いたスペースを、デイサービスや障がい者施設にするといった保育園の多機能化も検討していきたいと思っています。

高岡 核家族化が進み、取り組むべきテーマはたくさんあります。森田部会長の今後の活躍を期待しています。

保育の未来をつくるために

これまで、保育士養成校と保育部会は交流を図ってきました。双方の現状と課題を語るとともに、保育士の養成と人材確保のために今、何が求められているかを語っていただきました。



四條畷学園短期大学
保育学科長
合田 誠先生

大阪人間科学大学
名誉教授
柏原 栄子先生

調査研究委員会
門谷 一希委員長

調査研究委員会
木村 龍一副委員長



コロナ禍での課題

柏原 養成校の現在の課題は、やはりコロナ禍でどのように学生を養成するかです。学生はオンラインやオンデマンドの授業では学びきれないことを自覚しており、現場に出ることに不安を感じています。私たち養成校は学生のフォローと、コロナ禍で残された課題とこのような状況下でも克服できたことを整理して次につなげていかなければなりません。

合田 本学も、「養成校で学び、現場で実践する」という本来の学びの姿を実現させることが一番の課題です。実習期間中は、各園の先生方のご理解・ご協力のおかげで、現場実習を実現でき、「現場に勝る学びはない」と改めて実感しました。

門谷 大阪は、待機児童解消に向けて急ピッチで保育所を整備しています。その中で、私たち認定こども園の課題にあがっているのは人材確保です。当園では、先生方に長く働いていただくために、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

木村 どの園も、人材確保は課題ですね。保育士は女性が多いので、当園では産休・育休をしっかり取って確実に復帰していただけるよう福利厚生を整備しているところです。また、3年勤続を条件に1カ月1万円を貸し付け、条件を満たしたら返済しなくてもいい貸付金制度づくりも進めています。

合田 学生はいまだに結婚＝退職と考えていますが、離職のきっかけになるのは、制度や待遇面ではなく職場の人間関係だと思います。実は、現場の先生方に、ストレスマネジメントや職場環境の改善についてアンケートを取った結果、方向性が見出せたので、取り組みを進めようとしています。管理職の皆さんが現場の声をいかに吸い上げるか、また気軽に声をあげられるよ

うな雰囲気づくりがポイントになると思います。

大切なのはプライドを持つこと

柏原 離職率もそうですが、養成校も定員割れしており、絶対数は足りていないですね。しかも新聞やテレビは、保育園での事件・事故ばかりを報道するので、怖くて保育士の仕事はできないと感じる人が増え、保育士になる夢をあきらめさせる保護者もいます。でも保育士は、日々発見があり、仲間と保育を積み上げる喜びがあります。その魅力を伝えるとともに今、保育士をめざしている学生をていねいに育てることが、絶対数の確保につながると考えています。

門谷 柏原先生のお話をお聞きして、当園も保育の魅力を印象付けていかなければならないと思いました。当園の理事長は常に「自分が働きたい職場でないと、いい保育はできない」と言っています。今、求められているのは、ともに楽しく働き、いい職場環境をつくれる保育士さんだと考えています。

木村 絶対数を確保するためにも、個人的には保育士の地位を高めたいと考えています。保護者の中には「若い先生は育児経験がないから頼りない」という人もいますが、保育士は保育のプロフェッショナルですから、プロとしてのプライドをもってほしいと思います。

柏原 木村先生のおっしゃる通り、幼稚園や学校が休校する中、保育士はエッセンシャルワーカーとして頑張ってきました。コロナ禍で、医師や看護師が働けるよう下支えしたのは保育士です。私たちも保育士のプロフェッショナルな部分や保育の良い面を、SNSなどで社会に発信していくべきだと思います。

合田 プロと一般の方との違いは、ライセンスを有している点です。私も入学式では、国家資格を取得したというプライドをもつ大切さ、それを生かす職に就くという意識をしっかりとつよう伝えていきます。

お互いの交流が学びの機会に

合田 人材養成と人材確保のためにも、今後はより一層の保育部会と養成校の協働が必要だと考えています。特に、保育部会と養成校が交流する「保育士養成校と保育園・認定こども園との研究懇談会」は有意義です。今は年1回の開催ですが、年に数回実施したいと思っています。卒業生からは「在学中に勉強しておけばよかった」という声も聞くので、保育現場の先生方が気づかれたことは、この機会に遠慮なく養成校にお知らせいただくとありがたいです。

柏原 学生の実習や就職のためにも、ネットワークづくりや情報共有の場として、懇談会を継続していただきたいと思います。保育部会の皆さんと一緒に課題を考えていけるような関係を築くことが、良い保育士の養成につながると思います。

門谷 懇談会は多くの学びがあります。特に、養成校の先生方からお聞きする、保育現場に対する卒業生の厳しい意見は貴重です。法人として、新しい先生にどう接するべきか見返すいい機会ですし、新しいアイデアも湧いてきます。

木村 新任の先生や実習に来られた学生さんは、施設側には本音を話さませんが、養成校の先生には話されますからね。それを発信いただいたおかげで、実習や就職活動にどのように取り組んでいるのかも分かりました。合田先生がおっしゃるように、

年に数回実施していただけるとありがたいです。

合田 ぜひ、やりましょう。次のステップとしては、養成校と施設が課題解決の方向性を見いだせるような集いにしたいと考えています。

保育士の魅力を伝えたい

木村 これからは、私たちも保育士の仕事の魅力を発信して、若い人たちに養成校で学んで就職してもらえよう頑張りたいです。当園は男性保育士が多いので、多くの男性にめざしてもらえ職業になれればいいです。

合田 保育士はマイナスイメージが強いので、保護者に反対されて志半ばで断念する子どもは少なくありません。しかし、中学校で職場体験をした生徒は、やはり保育士は素晴らしいと思っ直すケースもあります。私たち養成校は、子どもの夢を育み、引っ張り上げるような継続した取り組みを行いたいと考えています。

柏原 本日は、保育現場のことを教わり勉強になりました。子どもが人とふれあうことで育つように、大人も人と接しながら学ぶのだろうと改めて思いました。

門谷 保育部会は先輩の先生方が、若い先生が情報交換し活躍することを願って作られたもので、これは大阪ならではの。本日の話を、当園の先生方にも伝えたいと思います。

合田 私も現場の先生方の話を聞いて、気持ちが引き締まると同時に、エネルギーをいただきました。直接、会って話すことがいかに大事かを改めて感じました。ありがとうございました。



初代保育部会長
上田 顕光
旭ヶ丘学園
昭和26(1951)年就任



2代目保育部会長
三木 達子
今川学園
昭和30(1955)年就任



3代目保育部会長
伊藤 宗順
南河学園附属 国分保育園
昭和32(1957)年就任



4代目保育部会長
小川 秀一
天使保育園
昭和34(1959)年就任



5代目保育部会長
井上 喜代一
天野山保育園
昭和36(1961)年就任



6代目保育部会長
小山 藤樹
フタバ学園
昭和38(1963)年就任



7代目保育部会長
北村 専一
脇浜保育園
昭和42(1967)年就任



8代目保育部会長
森田 信行
花園保育園
昭和46(1971)年就任



9代目保育部会長
中辻 利夫
東百舌鳥保育園
昭和60(1985)年就任



10代目保育部会長
高岡 國士
千里丘愛育園
平成13(2001)年就任



11代目保育部会長
永野 治男
榎塚こども園
平成17(2005)年就任



12代目保育部会長
森田 信司
若江こども園
平成29(2017)年就任

歴代部会長

1957
(昭和32年)

童謡デモ(保育所危機突破緊急大会)

社会保障関連予算が削られていくなかで、保母の解雇などが起こり、「社会保障の公約実現」、「保母に人並の給与を」と保母たちは童謡を歌いながら丸の内を埋め、国会や厚生省、大蔵省へ陳情などを繰り返しました。



1975
(昭和50年)

機関誌「保育おおさか」創刊

保育行政や各ブロックの研修や行事、調査研究委員会の研究発表、各保育園・認定こども園の紹介などを掲載してきました。平成29年(2017)年には500号を記念してDVDを作成しました。

1983
(昭和58年)

「育児についての女性意識調査」報告書作成

約1万人に個別配布し、8割以上の方から回答が得られました。「保育所機能をさらに充実していくとすれば?」との質問に対し、「希望する時期に入所できるようにする」「障がい児保育を積極的にする」「子育ての悩みや相談に応じてほしい」との回答が寄せられました。

1984
(昭和59年)

「でんわ育児相談」事業

前年の調査をうけ、大阪府社会福祉協議会事務局の一室を利用し開始されました。

※平成元(1989)年に発展的解消



保育部会 70 年のあゆみ 1951~1984

1951 (昭和26年) 1955 (昭和30年) 1957 (昭和32年) 1958 (昭和33年) 1959 (昭和34年) 1961 (昭和36年) 1963 (昭和38年) 1964 (昭和39年) 1967 (昭和42年) 1969 (昭和44年) 1970 (昭和45年) 1971 (昭和46年) 1974 (昭和49年) 1975 (昭和50年) 1976 (昭和51年) 1977 (昭和52年) 1978 (昭和53年) 1979 (昭和54年) 1981 (昭和56年) 1982 (昭和57年) 1983 (昭和58年) 1984 (昭和59年)

- 5月 保育部会設立
- 5月 上田顕光初代保育部会長就任
- 5月 三木達子2代目保育部会長就任
- 1月 童謡デモ(保育所危機突破緊急大会)参加(東京)
- 5月 伊藤宗順3代目保育部会長就任
- 1月 「保育予算大削減に関する近畿保育予算確保緊急集会」参加(京都)
- 1月 「保育所を守る国民大会」参加(東京)
- 3月 「保育所ブロック研究会」開催
- 12月 「府下保育所ブロック研究会」開催
- 12月 浦野住江初代保母会長就任
- 4月 大阪府保母会(現・大阪府保育士会)設立
- 5月 小川秀一4代目保育部会長就任
- 5月 鶴飼百合子2代目保母会長就任
- 10月 大阪民間社会福祉事業従事者共済会設立(以下、民間共済会)
- 5月 井上喜代一5代目保育部会長就任
- 5月 小山藤樹6代目保育部会長就任
- 10月 東京五輪開催
- 5月 北村専一7代目保育部会長就任
- 4月 民間社会福祉施設従事者給与実態調査
- 12月 大阪府保母会創立10周年
- 3月 大阪民間社会福祉施設予算要求総決起大会(風船デモ)と府内民間保育園の一斉休園
- 5月 森田信行8代目保育部会長就任
- 12月 「大阪民間社会福祉施設予算要求総決起大会」(風船デモ)と府内民間保育園の一斉休園
- 11月 ハンドブック『保育所保母のために』発行
- 11月 民間共済会第2回従事者体育祭で保育部会が初優勝
- 1月 人材確保のため「保母さんヤイ!阿波踊りツアー」実施
- 8月 機関誌『保育おおさか』創刊
- 8月 保育所保母海外研修会はじまる
- 4月 ハンドブック『保育所保母のために』発行
- 4月 調査研究委員会の前身である「財務委員会」発足
- 5月 社会福祉法人会計が複式簿記になる
- 4月 「調査研究委員会」発足
- 4月 民間共済会第12回ソフトボール大会で保育チーム初優勝
- 5月 大阪府保母会創立20周年
- 12月 民間共済会第12回ソフトボール大会で保育チーム初優勝
- 3月 府内民間保育園による第1回「絵画展」開催(平成2年度まで)
- 3月 「新任職員研修会」開催
- 4月 大阪社会福祉指導センター開催
- 8月 ハンドブック『障害児保育のために』発行
- 7月 「保育緊急集会(大阪)開催
- 8月 1万人を対象とした「育児についての女性の意識調査」実施
- 11月 「保母会だより」創刊
- 5月 「近畿ブロック保育研究会(大阪)」開催
- 7月 調査研究委員会『保育関係資料集』発行開始
- 12月 機関誌『保育おおさか』100号
- 5月 「でんわ育児相談」開始(平成元年度まで)
- 9月 近畿ブロック保育三団体主催「幼児問題研究会」(京都)参加

●=保育部会の動き、●=保育士会の動き、●=社会・その他の動き

1990
(平成2年)

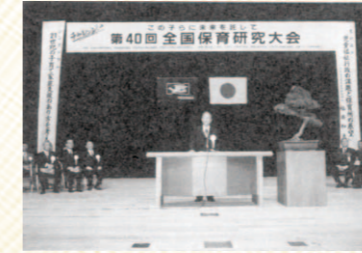
花と緑の博覧会に参加

花と緑の博覧会(大阪鶴見緑地)で「キッズアート・フェスティバル」として第10回保育絵画展(5月「大阪府いちょう館」)、ハワイ州の園児25人を招待して「いのちの海」で日米保育園児交流事業とちびっこ祭り(8月)を実施。期間中に迷子センターへ保育士を派遣しました。



1996
(平成8年)

「第40回全国保育研究大会(大阪)」開催



2000
(平成12年)



「ホームページ研修」開催

充実した研修会となり、参加者全員がインターネット上にホームページを公開できるまでになりました。

1995
(平成7年)

阪神淡路大震災 施設種別を超え被災者の 救援活動を行う

府内の保育施設の被害状況を調査するとともに、被災者支援活動として赤ちゃん用救援物資の送付、バイク隊による調査と物資輸送、義援金の呼びかけ、炊き出しなどを行いました。



赤ちゃん用救援物資詰め込み

保育部会 70年のあゆみ

1985 ~ 2006

2005
(平成17年)

「よい子ネット」開設

携帯電話のメール配信により、緊急の情報を提供するシステム。犯罪・不審者の増加を背景に、子どもを危険から守ることに保護者の意識を高めることを目的に導入されました。



説明会のようす



1985
(昭和60年)

1988 1989 1990 1991
(昭和63年) (平成元年) (平成2年) (平成3年)

1992 1994 1995 1996
(平成4年) (平成6年) (平成7年) (平成8年)

1997 1998
(平成9年) (平成10年)

1999
(平成11年)

2000 2001
(平成12年) (平成13年)

2003 2004 2005
(平成15年) (平成16年) (平成17年)

- 4月 「保育所制度の危機を迎える緊急研修会」開催
- 5月 武内茂子3代目保母会長就任
- 9月 ハンドブック『0、1、2歳児のために』発行
- 11月 中辻利夫9代目保育部会長就任
- 12月 「福祉施設予算確保緊急全国集会」参加
- 12月 保育所補助金国庫負担率削減を反対して初めて「保育おおさか」(号外)発行
- 11月 『聞く・聴く・きくー心をひらく育児相談』発行
- 12月 大阪府保母会創立30周年
- 5月 花と緑の博覧会(大阪鶴見緑地)参加
- 10月 「子ども国際フェスティバル」参加
- 「育児相談員養成研修・初級研修」開始
- 4月 機関紙『保育おおさか』200号
- 4月 保育園を活用した「わんぱくプラザ」実施
- 7月 「近畿ブロック保育研究会(大阪)」開催
- 9月 「育児相談員養成研修・初任者研修」開始
- 9月 「日本が「子どもの権利条約」を批准
- 1月 阪神淡路大震災
- 5月 「育児相談員養成研修・初任者研修」開始
- 10月 「第40回全国保育研究大会(大阪)」開催
- 10月 調査研究委員会『生きのびる保育園をめざして』発行
- 9月 「ふれ愛びつく大阪」閉会式に参加
- 11月 『保育園に関する情報提供のあり方について』作成・発行
- 6月 調査研究委員会『シズン乳幼児突然死症候群ってなあに?』冊子発行
- 10月 育児相談員養成研修「初級研修」を第一期研修に、「現任研修」を第二期研修に変更
- 1月 育児相談員 看板作成
- 1月 育児相談員へ府知事の「認定証」交付
- 6月 大阪府保母会を大阪府保育士会へ名称変更
- 7月 『保母会だより』が保育士会だより「ほほえみ」となる
- 12月 大阪府保育士会創立40周年
- 12月 調査研究委員会『シズンってなあに…こんなときどうするの?』ビデオ作成
- 2月 「育児相談員フォローアップ研修」開催
- 5月 社会福祉法施行「社会福祉事業法等改正」
- 8月 機関紙『保育おおさか』300号
- 10月 「ホームページ研修」開催
- 4月 全国に先駆けて「園庭開放事業」開始
- 5月 高岡國士10代目保育部会長就任
- 7月 「近畿ブロック保育研究会(大阪)」開催
- 5月 「保育士」国家資格化
- 11月 保育三団体主催「子どもを守る総決起大会」(東京)参加
- 10月 「三位一体改革を考える保育園緊急集会」(大阪)開催
- 5月 特定情報配信ツール「よい子ネット」開設
- 9月 永野治男11代目保育部会長就任

■=保育部会の動き、●=保育士会の動き、●=社会・その他の動き

2008
(平成20年)

「地域貢献事業人材養成研修」開始

「でんわ育児相談」事業の終了後、各地域や保育園で育児相談に対応できるよう新たな研修としてはじまりました。平成21(2009)年には大阪府知事による認定を受け、認定証の交付や看板の設置がはじまりました。



保育海外研修

これまでハワイやロサンゼルス、シドニーなどで研修を行ってきました。海外の保育園などを視察し、今後の保育について考える貴重な機会となっています。



2012
(平成24年)

第1回「保育士養成校と保育園との研究懇談会」開催

保育部会から52人、養成校からは67人が参加し、「養成校が取り組めること」「保育園が取り組めること」「養成校と保育園とが連携・協働して取り組めること」などをテーマに議論が深められました。



令和元(2019)年度

保育部会 70年のあゆみ

2007 ~ 2021

2015
(平成27年)

保育部会臨時総会・新年互礼会にて認定こども園も会員とする会則の改正が可決

新制度施行に伴い、幼保連携型及び保育所型に限り、認定こども園も会員とする会則の改正について可決されました。



2020
(令和2年)

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令

新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの施設や利用者が社会的制約を余儀なくされました。厚生労働省から発表された「新しい生活様式」に沿った保育・行事の実施のため、各園でさまざまな工夫が行われました。調査研究委員会こどもの安全研究グループでは、対応事例のアンケート調査と事例報告を行いました。

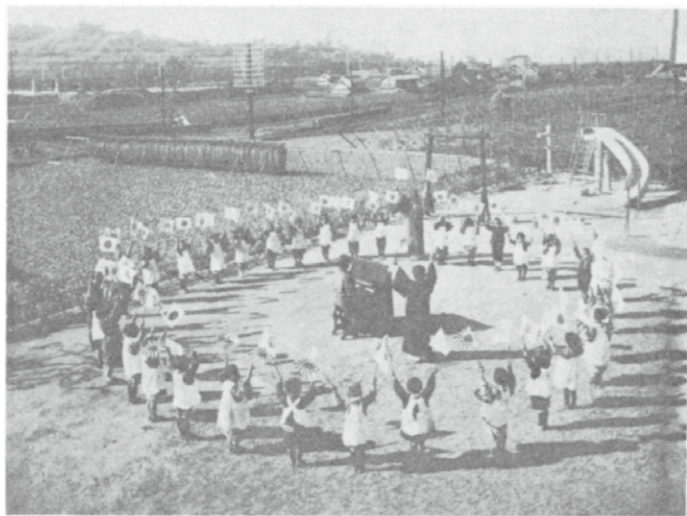


2007 (平成19年)	2008 (平成20年)	2009 (平成21年)	2010 (平成22年)	2011 (平成23年)	2012 (平成24年)	2013 (平成25年)	2015 (平成27年)	2016 (平成28年)	2017 (平成29年)	2018 (平成30年)	2019 (令和元年)	2020 (令和2年)	2021 (令和3年)																		
4月 大西潤子4代目保育士会長就任	8月 「地域貢献事業準備委員会」発足	3月 「地域貢献事業準備委員会」へ名称変更	4月 「地域貢献事業準備委員会」開始	12月 機関紙『保育おさか』400号	4月 「保育園における地域貢献事業」開始	4月 「保育園における地域貢献事業」開始	5月 児童福祉法改正「子育て支援センター事業」開始	10月 「新・よい子ネット」運用開始	12月 大阪府保育士会創立50周年	12月 看板設置開始	5月 「保育園における地域貢献事業」PRポスター・カード完成	7月 近畿ブロック保育研究会(大阪)開催	8月 「保育士等キャリアアップ研修対象研修開催」	8月 「地域貢献支援員(スマイルサポーター)養成研修」カリキュラム全面改訂	4月 機関紙『保育おさか』500号・記念DVD作成	5月 伊藤裕子6代目保育士会長就任	5月 森田信司12代目保育部会長就任	6月 『スマイルサポーター10年のあゆみ』冊子作成	4月 「スマイルサポーター養成研修」がキャリアアップ研修の対象に	4月 保育士等キャリアアップ研修対象研修開催	5月 スマイルサポーター認定カード発行	8月 「スマイルサポーター養成研修」がキャリアアップ研修の対象に	9月 大阪北部地震・西日本豪雨災害 義援金を募集	4月 「地域貢献支援員(スマイルサポーター)養成研修」カリキュラム全面改訂	7月 「近畿ブロック保育研究会(大阪)」開催	10月 「幼児教育・保育の無償化」開始	12月 大阪府保育士会創立60周年	6月 機関紙『保育おさか』Web号配信(令和2年6月号〜令和3年3月号)	7月 調査研究委員会「新型コロナウイルス感染症に伴う今後の保育や行事について」アンケート調査	5月 保育部会総会をオンライン中継配信	9月 eラーニングを用いた「保育士等キャリアアップ研修」開催

●=保育部会の動き、●=保育士会の動き、●=社会・その他の動き

おおさかの保育を辿る

＝先輩たちの「無言の教え」から＝



(昭和8年保育児童の遊戯風景)

施設は人によつて動いている
 社会福祉施設は人によつて動かされるものであり、使命感に燃えた人々が集まる場所に施設の発展があるといわれてきた。
 保育おおさか編集委員会は、大阪におけるそんな人たちの姿と保育所の移り変わりを昭和の歴史の記録をもとにシリーズとして企画掲載することにした。
 現代、公けの措置費、補

近代化研究 保育特集から
 助金の中で民間といえどもその特異性を明確に打ち出す場もなく、必然的に従来の開拓的、情熱的、人間的営みも失われつつあるような気がする。
 そんな時代にあつてもう一度、われわれの先輩たちがどのようにして厳しい時代を歩いてきたのかという「無言の教え」を考えてみる必要があるのではないだろうか。

近代化研究第四十六号保育特集にも格好な一例がある。
 自宅の納屋を保育室に作りかえて保育を始め、その後、生野セツルメント、大仙保育園と事業を展開されてきた八田豊子さんが当時の様子を次のように記している。
 昭和六年、夫・勝三と共に生野セツルメントを解散し一粒の麦にと神を信じ無一文からの出発であつた。
 保育料は二元。貧しいおかずを隠して食べる子どもたちのために、大阪で最初に給食を始めます。
 戦争が始まり、名前も隣保館と改称、そして疎開命令。府庁から回された一台のトラックに保育用品を積めるだけ積んで、泉南郡阪南町尾崎へ引越す。近所に保育施設はなく、すぐに四〇人の子どもたちがあつまる。
 土間にオルガンを置き、海岸、お寺、神社が運動場等の設備もなく、体一つのぶつかり保育、でも保育内容は充実していたと思つて居る。保育料八円ですべてを賄う。

貴重な資料をもとに
 また、私たちは大社協事務局長井上光氏からも貴重な資料を手に入れることができた。
 それは、昭和十年の大阪府社会課が作成した社会事(保育おおさか編集委員会)の苦しい時から児童福祉を守りつづけてきた人たちの姿をうかがうことができあつた。
貴重な資料をもとに
 その施設一覧には乳幼児託児所四九施設、農繁期託児所五九施設が列記されている。
 まず、一枚の旗と写真、五九施設もあつた農繁期託児所について、次号からその姿を追う事にしてみよう(保育おおさか編集委員会)

全国保育協議会関係 全国大会開催予定

- 第八回若手保育所長セミナー 青森県・昭和62年6月10日(水)～12日(金)
- 第31回全国保育研究大会 滋賀県・昭和62年10月21日(水)～23日(金)
- 第31回全国乳幼児保育研究大会 未定
- 第22回全国保育所長研修会 未定



おおさかの保育を辿る ②

農繁期託児所と慈愛旗



常称寺保育園に保存していた「慈愛旗」

農繁期託児所はまさに現在の保育所のルーツである。昭和初期の農村は経済的にも行詰まり、その生活も衛生施設の不完備、医者、助産婦のいない地区、井戸水、住宅の不衛生、また粗衣粗食による乳幼児の栄養不良、そして農民の大部分は寄生虫の保持者、などのひどさであつた。
 特に、農繁期には、一家が働かなければならない状態の中で、子供たちは放任

され、寂しく危険な毎日だつた。
 炎天下、日射病に罹つたり、雨の日はぬれぬずみ。ミソに落ちたり、小川で水死したりの事故も多く、人道に大きな問題であつた。
 このような事態を解決するため当時、

大阪市弘済会保育部長、田村克己氏が農繁期保育所を熱心に提唱、その趣旨を小冊子にした。
 その目的は、第一に農村児童保護、第二に農村経済保護とした。
 一、集落に二カ所設ける。
 一、地区、婦人会、お寺の手で設ける。
 一、保母さんは資格はいらず篤志家に頼む。
 一、経費は一日一人、二、三銭必要。

一、期間は短かく時間は長く。
 一、その他給食、衛生等の注意等々
 運営についても細かく指導した。
 さて、大社協井上事務局長が預かつた一枚の写真と農繁期託児所と染められた旗のルーツは、

まず、旗のいわれだが、昭和四年、朝日新聞社会事業団(現在、朝日新聞大阪厚生文化事業団)が近畿、四国、中国、北陸、九州の二府二十七県にわたつて既設農繁期託児所の調査を実施、府県当局に依頼してその中の優秀な託児所に、毎年、事業団から助成金と賞状、さらにこの旗、名付け「慈愛旗」が贈られた。
 昭和十九年には全国で三千五百カ所の託児所が表彰されたのである。

五月二十二日(金)堺市金岡グラウンドで恒例の社会福祉施設従事者ソフトボール大会が行なわれ私たちが保育チームもメンバーを揃え出場した。
 保育チームのユニホームは目も覚めるほどのオレンジ色のTシャツ。
 気合も充分に一回戦のプレイボール。
 一回戦の対戦チームは大

阪福祉事業財団、苦戦ながらも勝利を手にし、二回戦進出。
 二回戦は、海の子学園を相手に逆点劇をみせ、最後までヒヤヒヤではあつたがなんとか逃げ切つた。
 次の相手は、四天王寺福祉事業団、ユニホームも本格的なチームである。
 スポーツは服装ではないと思ひながら、やはり強か

つた。結果は、みんなの努力もむなしく三回コールドゲームで敗れた。
 しかし、終つてみると総合三位というすばらしい結果に全員喜んだり、驚いたりだつた。
 (くさべ保育園 坂下和美)

ある。
 我々は常称寺保育園で岩田恵理理事長に当時の状況を聞いてみた。
 岩田先生は当時、旧制中学生で、あまり農繁期保育所の詳細は記憶にないが、と前置きされながら「満州事変のぼつ発により、中国からの輸入食糧が途絶え、国内での食糧増産が叫ばれはじめ農繁期託児所が必要性が高くなつた。
 そこで昭和九年、枚方郡役所、A氏の世話をいいただき、大阪府北河内郡川越村大字山の上(現在地の常称寺境内で百三十戸の村の子

供たちを対象に実施に至つた」と話して下さつた。
 保育の運営、内容については、当時保母をされていた理事長の実姉、美代子さんと、理事長夫人の慶子さん、現園長夫人の岩田公子さん、近所に住む第一期に巣立つた橋兵吾氏(昭和四年生)に思い出を語ってもらつた。
 保育は、六月と十一月の二カ月、早い時には朝七時に子供を迎え、夕暮れ時まで、別段決まつた保育時間もなく子供を預つた。子供たちを指導したのは理事長の実姉の方々と応援に来てくれた近所の愛国婦人会や

供たちを対象に実施に至つた」と話して下さつた。
 美代子さんが「苦勞なんては、当時保母をされていた理事長の実姉、美代子さんと、理事長夫人の慶子さん、現園長夫人の岩田公子さん、近所に住む第一期に巣立つた橋兵吾氏(昭和四年生)に思い出を語ってもらつた。
 保育は、六月と十一月の二カ月、早い時には朝七時に子供を迎え、夕暮れ時まで、別段決まつた保育時間もなく子供を預つた。子供たちを指導したのは理事長の実姉の方々と応援に来てくれた近所の愛国婦人会や



強かつた保育チーム!

第20回施設従事者ソフトボール大会

役員名簿

昭和26年 5月～	部会長	上田 顕光(旭ヶ丘学園)
	副部会長	水尾 頼(双葉幼児の園)
		中根 暁月(みのり保育園)
昭和30年～	部会長	三木 達子(今川学園)
	副部会長	浦野 住江(天美保育園) 小谷 蓮乗(敬愛学園)
昭和32年～	部会長	伊藤 宗順(南河学園)
	副部会長	小谷 蓮乗(敬愛学園)
		上田 官治(さかえ保育所)
		江村 峯代(※)
昭和34年～	部会長	小川 秀一(天使保育園)
	副部会長	浦野 住江(天美保育園)
		田中 重吉(府下公立)
		伊藤 徳太郎(港保育所) ※(市公立代表)
昭和36年～	部会長	井上 喜代一(天野山保育園)
	副部会長	小川 秀一(天使保育園)
		上田 官治(さかえ保育所)
		小山 和輔(※)
昭和38年～	部会長	小山 藤樹(フタバ学園)
	副部会長	小川 秀一(天使保育園)
		伊藤 徳太郎(港保育所)
昭和42年～	部会長	北村 専一(脇浜保育園)
	副部会長	三角 勉(たちばな保育園) ※
昭和46年 5月～	部会長	森田 信行(花園保育園)
	副部会長	中辻 利夫(東百舌鳥保育園)
		高岡 國士(千里丘愛育園)
		小宮 重之(泉佐野ルーテル保育園)
		鶴飼 百合子(さつき保育園)
昭和60年 6月～	部会長	森田 信行(花園保育園)
	副部会長	中辻 利夫(東百舌鳥保育園)
		高岡 國士(千里丘愛育園)
		寸土 暁(香里ヶ丘保育園)
		武内 茂子(旭ヶ丘学園)
昭和60年 12月～	部会長	中辻 利夫(東百舌鳥保育園)
	副部会長	高岡 國士(千里丘愛育園)
		寸土 暁(香里ヶ丘保育園)
		奥山 知直(ひしの美保育園)
		武内 茂子(旭ヶ丘学園)
平成3年 6月～	部会長	中辻 利夫(東百舌鳥保育園)
	副部会長	高岡 國士(千里丘愛育園)
		寸土 暁(香里ヶ丘保育園)
		門谷 明(陽気保育園)
		武内 茂子(旭ヶ丘学園)
平成13年 6月～	部会長	高岡 國士(千里丘愛育園)
	副部会長	門谷 明(陽気保育園)
		永野 治男(榎塚台保育園)
		水崎 勝(寝屋川なかよし保育園)
		森田 信司(花園保育園)
		武内 茂子(旭ヶ丘学園)
平成17年 5月25日～	部会長	永野 治男(榎塚台保育園)
	副部会長	熊井 茂治(千里山やまて学園)
		水崎 勝(寝屋川なかよし保育園)
		橋詰 幸雄(善根寺保育園)
		門谷 明(陽気保育園)
		嶋田 典之(取石南保育園)
		森田 信司(花園保育園)
		武内 茂子(旭ヶ丘学園)
		菊池 繁信(もみの木保育園)
		宮武 勲(大野台保育園)

平成19年 5月25日～	副部会長	嶋田 典之(取石南保育園)
		森田 信司(花園保育園)
		大西 潤子(古川園)
		菊池 繁信(もみの木保育園)
平成21年 5月27日～	部会長	永野 治男(榎塚台保育園)
	副部会長	武内 慎吾(旭ヶ丘学園)
		亀井 信昭(寝屋川めぐみ保育園)
		橋詰 幸雄(善根寺保育園)
		齊藤 和正(坂門ヶ原保育園)
		嶋田 典之(取石南保育園)
		森田 信司(花園保育園)
		大西 潤子(古川園)
平成23年 5月24日～	部会長	永野 治男(榎塚台保育園)
	副部会長	武内 慎吾(旭ヶ丘学園)
		亀井 信昭(寝屋川めぐみ保育園)
		橋詰 幸雄(善根寺保育園)
		齊藤 和正(坂門ヶ原保育園)
		嶋田 典之(取石南保育園)
		森田 信司(花園保育園)
		高田 テルミ(貝塚南保育園)
平成25年 5月20日～	部会長	永野 治男(榎塚台保育園)
	副部会長	武内 慎吾(旭ヶ丘学園)
		亀井 信昭(寝屋川めぐみ保育園)
		森田 信司(花園保育園)
		齊藤 和正(坂門ヶ原保育園)
		嶋田 典之(取石南保育園)
		高田 テルミ(貝塚南保育園)
		菊池 繁信(もみの木保育園)
平成27年 5月18日～	部会長	永野 治男(榎塚台保育園)
	副部会長	武内 慎吾(旭ヶ丘学園)
		亀井 信昭(寝屋川めぐみ保育園)
		森田 信司(花園保育園)
		齊藤 和正(坂門ヶ原保育園)
		田中 正清(泉佐野すえひろ保育園)
		高田 テルミ(貝塚南保育園)
		菊池 繁信(もみの木保育園)
平成29年 5月25日～	部会長	森田 信司(若江こども園)
	副部会長	武内 慎吾(旭ヶ丘学園)
		亀井 信昭(明善保育園)
		齊藤 和正(坂門ヶ原保育園)
		池尾 弘久(こども園くさべ)
		田中 正清(泉佐野すえひろ保育園)
		菊池 繁信(もみの木保育園)
		門谷 一希(明の守保育園)
		伊藤 裕子(国分保育園)
		伊藤 裕子(国分保育園)
令和元年 5月25日～	部会長	森田 信司(若江こども園)
	副部会長	武内 慎吾(旭ヶ丘学園)
		東口 房正(いずみっこ保育園)
		齊藤 和正(さかとかがはらこども園)
		池尾 弘久(こども園くさべ)
		田中 正清(すえひろこども園)
令和3年 5月18日～	部会長	森田 信司(若江こども園)
	副部会長	武内 慎吾(旭ヶ丘学園)
		東口 房正(いずみっこ保育園)
		向井 秋久(石川こども園)
		篠崎 直人(平和の園)
		橋本 良孝(池上わかばこども園)
		門谷 一希(明の守なかざき園)
		伊藤 裕子(国分保育園)
		伊藤 裕子(国分保育園)
		伊藤 裕子(国分保育園)

※資料確認できず詳細不明

編集後記

今回この大阪府社会福祉協議会保育部会の70周年記念誌を制作するにあたり、私が知っている保育部会の歴史はほんの一部であり、長い歴史の上に今の部会があるのだと実感いたしました。

これまでの70年の歴史である年表を作成するにあたっては、編集委員だけではさかのぼり切れず、保育部会会員施設をはじめに、(一社)大阪市私立保育園連盟など過去を知る関係各位のご協力もあり、完成することができました。

その歴史はあまりにも深く、そして常に、大阪の保育、地域の福祉ニーズに応えようとする取り組みでした。その数々の業績の上に今があり、「スマイルサポーター事業(地域貢献事業)」など、大阪府だけでなく全国に発信できるものを培ってきたのだと感じました。

座談会では、偉大な先駆者の中から高岡國士先生、永野治男先生。そして森田信司部会長から当時や今の貴重なお話を伺うことができました。この記念誌で歴史を振り返ることで、過去から現在へどのようにバトンが渡されてきたのか、私たちが次の世代にどのようにバトンを渡していくか、今後の日本の子育てについての道標となる記念誌となりました。

最後に、当記念誌の制作・編集にあたり、お忙しいなか原稿などお寄せいただきました皆様方、記念誌作成に終始ご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

70周年記念誌編集委員長 齊藤 和正

写真・情報提供施設	
旭ヶ丘学園(吹田市)	東百舌鳥保育園(堺市)
あまのこどもえん(河内長野市)	フタバ学園(東大阪市)
今川学園(大阪市)	双葉児童園(岸和田市)
貝塚南こども園(貝塚市)	山直南こども園(岸和田市)
国分保育園(柏原市)	わかしまこども園(貝塚市)
五風会(岸和田市)	大阪民間社会福祉事業 従事者共済会
常称寺保育園(枚方市)	
天使保育園(大阪市)	

令和4(2022)年1月発行

発行人	森田 信司
編集委員長	齊藤 和正
編集委員	中塚 展朗 得 喜成 田中 達彦 古賀 壽 高槻 良平
事務局	西岡 崇 安田 葵





社会福祉法人

大阪府社会福祉協議会 保育部会

〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54

TEL : 06-6762-9001

FAX : 06-6768-2426